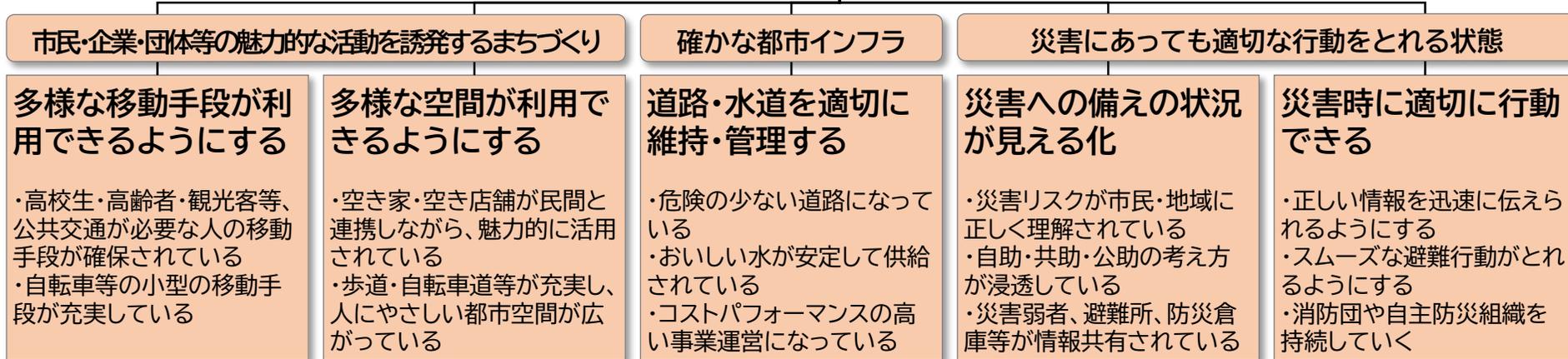


「10年後のありたい姿」は

安定した都市インフラの上で、まちでの活動を誘発する仕掛けが充実するとともに、災害等から生活を守り、いち早く日常を取り戻す備えが出来ていること

です

この「ありたい姿」の実現には、



の実現が必要

【ワークショップの概要】

・都市インフラの役割について、次の2つがある。

①日々の暮らしを支える土台としての役割 ②まちの魅力を創出していく土台としての役割

・①については、一定のサービス水準を確保・維持していく必要性が確認された。

・②については、「いくら整備しても、使われないと意味がない」、「投資されてきた、中心市街地のにぎわいが減っている」という問題意識のもと、都市インフラができることについて様々なアイデアが出された。

→②については、他分野とも連携して、具体的な取組を拡げていくことが求められる。

・都市インフラがあるうえで、防災についての安心感を得るには、災害時の具体的な行動が見えている状態をつくることが重要である。そのためにも、バランスよく自助・共助・公助の役割分担がなされ、それぞれに備えや訓練ができている状態をつくることが求められる。

